

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙 3:12～14 「身に着けるべきもの」

[12] 「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、

謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」

「神に選ばれた者、聖なる、愛されている者」…このことばは、もともとイスラエル人だけに当てはまるものであったが、パウロはこのことばを異邦人であるコロサイ人たちに用いることによって、彼らの現在の身分を示す。今やイエス・キリストによってこの恵みは全世界におよんでいるのである。その上で彼は 3:10 節で言及した「新しい人」の特質をあげ、それを身に着けることを勧める。

①深い同情心…あわれみの心。当時の社会では不具者や病人は無用の長物のように扱われ、老人に対する配慮もなかった。しかし、福音はこのような社会に真の同情心をもたらした。

②慈愛…人に対する思いやりのある優しさ。→ヨハネ 8:1～11(姦淫の女に対するイエスの態度)

③謙遜…自分が救われたのは全くの神のあわれみによるのであり、自分の内には神に対して自己主張する権利など一片も存在しないと、真に認めていることから出る他者への態度。

④柔和…強さと同時に優しさも兼ね備えた特質。主イエスの生き方のうちにそれが見られる。→マタイ 5:5、21:5、Ⅱコリント 10:1

⑤寛容…隣人に対して決して忍耐を失わない精神。隣人の愚かさや無知にも決して節度のない批判や馬鹿にしたようなことばを吐かないこと。隣人の悪意ある態度にも決して恨みや怒りに駆り立てられないこと。

[13] 「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」

12 節の五つの徳目に続いて人間関係相互の徳目が二つあげられる。

①互いに忍び合う…忍耐すること。主イエス・キリストの模範に従う。→Ⅰペテロ 2:19～21、Ⅱペテロ 3:9

②だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても互いに赦し合う…マタイ 18:21～22(七度を七十倍)、それどころか主は私たちが他人を赦すよりはるかに多く私たちの罪を赦して下さっている。主が私たちが赦して下さったように私たちも他の人を赦す。このことが本当にわからないと他人を赦すことができない。

[14] 「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです」

服を着たなら、最後に着けるものとして帯がある。愛は今まで出てきたすべての徳目を結びつける帯である。それらの徳目を神に喜ばれる完全なものに高めるのである。愛がな

ければ、今まで述べられた徳目は道徳的義務としての性格を強くする。すなわち律法的になる。

謙遜でなければならない。寛容でなければならない。忍耐しなければならない。赦さなければならない。……。

しかし、愛があるならばそれによって麗しい調和が与えられ、真に神に喜ばれるものとなるのである。

→ I コリント 13:4~8a 神は御子イエス・キリストをこの世に送られたことによって、真の愛の何たるかを身をもって示された。→ヨハネ 3:16

私たちが神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、ここで教えられている特質を身に着け、また結びの帯として愛を身に着け、キリストにある新しい人としてこの地上で良き証しをして生きていく者になりたい。そのためにも、神が私たちをそのような者として日々新しくしてくださり、みこころにかなった歩みをしていけるように祈り続け、求め続けていくことが大切である。